

【茶】の【低温】対策について

<11月>

農業経営支援課

(1) 予想される被害状況

- ・ 越冬芽の芽つぶれによる翌年の一番茶の減収

(2) 事前対策

- ・ 早生品種（ゆたかみどり等）や中切りしたやぶきた等では、秋冬期の急激な低温により茶芽が凍害を受け、芽つぶれを起こす場合があるため、防霜ファンやスプリンクラーを用いて秋冬期防霜を行う。
- ・ 秋冬期防霜を行う期間は初霜期から12月末までとし、防霜ファンやスプリンクラーの設定温度は、初霜期で2℃、12月では0℃とする。
- ・ 凍害を受けやすい園では、秋整枝の位置を1～2節高い位置で仮整枝としておき、春整枝で1～2節刈り落とす2回整枝の作業とする。

(3) 事後対策

- ・ 芽つぶれの発生状況を確認した上で、春整枝位置を決定する。